

気象変化と除草剤研究

今年は暖冬かと思っていたら、3月、4月になってたびたび降雪があり、驚かされた。しかし、いつのまにか野山は緑に包まれてしまった。今年はどのような年になるのであろうか。

高気圧や低気圧がひんぱんに通り、アジア大陸と太平洋のさかいに位置するわが国では、気象変化が諸外国にくらべていちじるしく大きい。異常気象という言葉がよく使われるが、年によって気象が異なるのはむしろ当然のことなのである。5月になると、本州の南岸ではすでに梅雨のはしりが訪れているが、北海道では晴天の日が多い。日照時間がもっとも少ない時期は、東京では6月下旬、函館では7月下旬である。このように、気象の季節的変化も地方によって著しく異なるので、温度や降雨の影響を受けやすい除草剤を使用するときは、気象条件を考慮することが大切になる。

環境調節技術の進歩によって、季節を超越して試験を反覆することが可能になったかにみえる。たしかに、環境調節装置は除草剤の作用特性などを解明するうえに大きな役割を果たしている。しかし、種々の要素が組み合わさった気象条件を自然と同じように作り出すことはむずかしく、また生物の生活のリズムを人工的に変えることも容易ではない。与えられた年1回の自然条件の機会を、有効に活用しなければならない。これからしばらくの間は、除草剤の研究者にとって、きわめて重要な季節である。

(農林省農事試験場 中川 恭二郎)

目 次

転換期における農業問題

財団法人 農政調査委員会

事務局長 久宗 高…………… 2

世界の除草剤の動向 (5)

科学技術庁科学審議官

農学博士 石倉 秀次…………… 5

佐賀段階における

雑草防除の現況と問題点

佐賀県農業試験場

作物部長 江副 浩…………… 15

北海道における

水田除草剤の普及状況

北海道主任専門技術員

原 正市…………… 20

農林省園芸試験場興津支場

果樹第2研究室

広瀬 和栄…………… 22

除草剤20年

受賞者の横顔

木根淵旨光氏…………… 24

木村 政美氏…………… 24

川嶋 良一氏…………… 24

川村英五郎氏…………… 24

昭和43年度

畑作用除草剤試験成績概要

(財)日本植物調節剤研究協会…………… 25

新除草・調節剤

P C P・Linuron 除草剤…………… 32

T C T P除草剤…………… 32

フェンメディファム除草剤…………… 33

クレダシン除草剤…………… 33